

姥ヶ山自治会報

第 68 号

発 行 者
姥ヶ山自治会
田 中 保 夫

印 刷
新潟マイクロコンピュータ株

平成二十四年九月三十日現在
姥ヶ山自治会動向
世帯数 一、三五〇戸
班 数 一一五班

姥ヶ山諏訪社玉垣改修工事 並びに祭りの御礼

姥ヶ山氏子会 会長 青木 正

玉垣の修復工事を計画してから二年余り。

玉垣に関する全ての工事が、今年八月に完了いたしました。

諏訪社氏子会の皆様はじめ、地域の皆様の温かいご協力で、六百万円を超えるご寄付を頂きました。この工事は地盤沈下に伴い玉垣崩落の危険を予てから言われておりましたが、予算等大変な工事となるため見送られてきました。しかし先の東日本大震災を機に見過ごすことはできないと、修復工事を決断いたしました。工事費をどのように工面するか問題でありましたが、姥ヶ山地域伝統の人情と結束力でしょうか皆様の温かいご支援を受け、予定を超えるご寄付を頂くことが出来ました。ここに地域の皆様から厚く感謝申し上げます。

工事は玉垣修復の他に、神社の維持管理に支障をきたしていた、大型車両等の乗り入れ口を作ること、経費等の削減に繋げることが出来ました。また、物置小屋や長木小屋もこの際移動し整備いたしました。

今年の諏訪社大祭では、玉垣修復工事の竣工奉告祭を同時に行った関係で神事に時間を掛け大変迷惑をお掛けしましたことをここに詫言いたします。前夜祭は、例年通り自治会をはじめ、祭り実行委員会の皆様の御陰で恒例の盆踊りが開催されました。修復された玉垣、整備された境内で大勢の老若男女



(玉垣撤去)



(玉垣亀裂状況)



の踊り手の輪、踊る阿呆に見る阿呆と、大変賑わいました。その中でも、車いすやストレッチャーに乗られたお年寄りの皆さんまで楽しいと喜んでおられた事に、感激いたしました。唯、大祭の神楽殿の舞になると人出が少ないのは反省点と思います。最後に、一昨年諏訪社の境内空地を公園として新潟市と借地契約し、姥ヶ山諏訪社公園となりましたことをご報告致します。



(車両乗入部完成)



(玉垣修復完了)



(玉垣設置工事)

姥ヶ山祭りを終えて

実行委員長 吉岡富三雄

今夏の一大イベントとなつている「姥ヶ山夏祭り」が今年も八月二十六・二十七日に開催されました。

この大祭を開催するにあたり氏子、氏子役員、地元の法人、周辺の自治会及び自治会役員等、多くの方々の寄付や労働奉仕の支援を頂き、改めて御礼申し上げます。この祭りは期日固定です。で、昨午が金・土曜日で今年は土・日曜日だと期待していたところ、今年が閏年であつた事によつて曜日が二日送られて日・月曜日の開催となり本祭り・月曜日の子供神輿の集まりが心配でしたが幸いにも夏休みが昨年より長かつた事により多くの子供達が猛暑にも拘わらず集まつてくれたことは幸ひでした。

さて最近、全国で祭りの開催が危ぶまれている地域があるなかで当姥ヶ山祭りの、取り分け前夜祭は四百名前後の多くの方々が集まつて来られています。

これは当地域の人口増や周辺に大祭が少ない等の事由によるものかも知れませんが、このことは「地元の祭りから地域の祭り」になりつつあることを物語っているとも言えます。この現況を見たとき、今後の姥ヶ山祭りの警備をはじめとした業務内容や段取り、環境整備他を見直して見る時期に来ているのではないかなと思つています。幸ひにしてこれまで大きなトラブルや事故は発生していませんが、不特定多数の多くの見知らぬ人達が集まつている前夜祭ですので想定されることに対応した危機管理は整えておく必要があります。これは境内を巡視した時にも考えさせられました。

最後にこの祭りの準備に地元の多くの方々が協力されておりますが、参加の方もお願ひ致します。



女性部の活動

女性部長 高橋ひろみ

春 恒例になった「花いっぱい運動」も十一回目となり五月二十七日に開催いたしました。例年百名程の参加を頂くのですが今年は六十名と少し寂しい状況でした。

それでも講師の先生がご準備くださった花々を楽しく・美しく・寄せ植えできて、皆さん満足そうな顔でお帰りになりました。

秋 十月二十三日 あいにくの雨でしたが二回目となる 陶芸体験を自分の足でろくろの台を蹴つて回す（けりろくろ）を体験。初めてなのでみんな少し緊張気味 思い思いの カップ・皿・茶碗・鉢 等々力作の出来上がり。

なかなかご教授頂けない「庵地焼き・旗野窯」に二十一名の参加者全員大喜び。保田温泉で昼食を頂き 汗も流し なんと 春・秋 共に皆様のご参加をお待ちしています。



【 花いっぱい運動 】



【 陶芸体験 】

クリーン作戦

環境部長 桑原英治

毎年、春と秋に実施している「クリーン作戦」には、毎回多くの皆さんのご協力をいただき、ありがとうございます。

今年も、春（五月十三日）・秋（九月三十日）とも一二〇人ほどのご参加がありました。

クリーン作戦は、地域の環境整備の一環として、また「ごみゼロ」への強い願いも込められています。まだまだ多くのごみが捨てられているのが現状です。

しかし、その量は全体的には減少傾向にあり、中でも粗大ごみが少なくなってきました。秋には、毎回捨てられていたテレビが一台もありませんでした。

一方、ごみは市が収集するまで自治会館前に集めて一晩置かれています。残念なことに、春秋とも翌朝までに新たに粗大ごみがいくつか持ち込まれました。

十種十三分別のごみ出し実施も五年目に入りましたが、自治会内のごみステーションでは一部にルール違反がみられ、そのごみは収集されずに残されています。ごみ出しは「自己責任」が大事かと思えますので、ご協力をお願いします。



衛生部の活動報告

衛生部長 桜井輝雄

主な活動はゴミステーションの点検、春・秋に行われるクリーン作戦のゴミ等の収集、六月に行う一斉下水溝清掃、やぶ蚊対策、アメシロ予防等を行っています。

やぶ蚊対策は六月下旬から九月下旬まで IGR錠を雨水桝や流れの悪い排水路等に月二回散布します。一丁目一九七ヶ所、三丁目一五ヶ所、四丁目五七ヶ所、五丁目一〇〇ヶ所、六丁目七〇ヶ所散布しています。IGR錠を散布したせいか蚊が少なかったと思います。

一斉下水溝清掃は下水道にしたため少なくなっていますが、場所によっては多い所もあります。そういう場所は年一回ではなく二回行ったほうが良いと思います。

アメシロ予防は各ブロック一斉に行えば良いと思いますが、色々な事情があつて出来ないですが極力したいと思っています。

これからも皆さんの協力なしでは出来ませんので、是非ご協力をお願いいたします。



運動会とラジオ体操

文化育成部長 高嶋千明

去る十月七日（日）第二十九回町民大運動会を開催しました。

昨年は天候も良くグラウンドで行いでしたが、雨で体育館での実施となっていました。

当日は三百人ほどの参加があり大変盛り上がりました。今年は役員改選があつた為、上手く準備が行えるか心配な点もありましたが全体の流れとしては上手く行えたのだと思います。また、山潟中学校の生徒さんも三名応援に来てくれ、大変助かりました。ぜひ来年もお願いしたいと思います。

競技内容については、昨年と同様の内容でしたが、今年も最後に行われた紅白対抗リレーについては、選手の集まりがうまくいかず、今後、他の競技にするか考える必要があると思われました。

また、景品については、新潟市農協様より新米の差し入れがあり、福引に使用させて頂き、参加者の皆さん大変喜んでいました。

平成二十五年度は、第三十回の記念の大会となります。新たなアイデアを加え、より一層楽しんで頂ける運動会にしていけたらと思います。また、ご協力頂きました役員の皆様に感謝いたします。

夏休みラジオ体操については、七月二十三日～八月十日の三週間（土日除く）、桜が丘小学校と諏訪神社で行いました。

毎年の事ですがリーダーとなる子どもたちはもちろんの事、他の子どもたちも毎日熱い中、頑張つて来てくれました。

最終日には参加した子ども達に参加賞を配りましたが、かろうじて全員に配

られた状態だったので来年度はもう少し増やさなければと思いました。夏の朝から、子ども達とラジオ体操をするのも気持ちのいいものです。ぜひ自治会の皆さんには、多数ご参加して頂きたいと思います。



【 第 29 回運動会 】



【 ラジオ体操 】



防災訓練について

生活安全部長 松原益雄

六月二十四日に桜が丘小学校を会場として、第十三回自治会防災訓練を実施しました。

主な内容としては、初期消火訓練、濃煙テント体験、被災者搬送訓練、応急手当訓練、心肺蘇生訓練、炊き出し訓練を行いました。

今回の特徴としては、従来は参加賞として帰りに配布していた、炊き出し訓練で調理したアルファ米の五目御飯とトン汁を全員で体育館で食べた事があげられます。家庭科室の設備の使い方や、セツトで配食すると全員に行き渡るまで時間がかかることがわかりました。

また、各訓練とも消防署の方とともに姥ヶ山消防団からも積極的に指導していただき、頼もしく感じました。

今回は、訓練の内容を再検討し特徴ある訓練を取り入れたいと考えています。

今回の参加者は一五二名でしたが、当自治会の世帯数から考えると、もつと大勢の方に参加して頂きたいと思っています。

自治会では、防災関連機器として一昨年・昨年は火災警報器を斡旋しましたし、今回は消火器の注文を受け付けています。消火器については、過去に自治会で斡旋した中で耐用年数に達した物もありますので、ご確認下さい。



〔炊き出し〕



〔初期消火〕



〔濃煙テント〕



〔応急手当〕



〔心肺蘇生〕

姥ヶ山農家組合

姥ヶ山農家組合長 近藤英一

農家組合は、いわゆる農協です。旧村の農家を中心に七十六戸の組合員で活動しております。

J A新潟市の傘下で、旧新潟市の東新潟の各農協が合併し平成十五年に設立され、本店を海老ヶ瀬に置き、組合員一人（半数が準組合員）で構成されています。

事業概要としては、農産物の生産販売や出荷管理といった営農、預貯金貸出等の金融、生保損保等の共済、農機具や車両等の販売修理、それに虹のホールで葬祭も承っております。

一般の方もJ Aをご利用できますのでよろしく願います。

姥ヶ山農家組合の年間事業としては、四月の集落座談会から始まり、七月の穂肥指導会、八月の米出荷説明会、九月の米作況調査、十月の役員旅行、その他各種書類の配布・回収、更に総会を二月に行っています。

団塊の世代が定年を迎え、この地域にも俄か農家の方が増えて農作業に汗を流されているようですが、中々野菜作りに悪戦苦闘しておられるのではないのでしょうか？

分からないことや上手いかないときは、何時でも農家の爺ちゃん婆ちゃんに聞いて頂ければ、優しく教えてくれるかと思えます。

また、私は、消防団の山潟分団長も拝命しておりますので、消防団活動にもご協力願います。



姥ヶ山消防団の紹介

姥ヶ山消防団班長 阿部政信

新潟市消防団は東大畑通の消防局内に本部を置き、消防団長以下六千名程の組織です。各区に方面隊を置き、その下に地域の分団、末端の班という構成になっています。

正式には、新潟市消防団中央方面隊山潟分団第二班というのが我々の名称です。

現在、私と渡部直樹副班長の下、十三名で活動しております。

消防団員は、本業を持ちながら、「自分達のまちは自分達で守る」という精神に基づき、地域の安心安全を守るために活動している組織です。地域の事情に詳しく、動員力に優れた消防団は、防災活動においてとても重要な役割を果たしています。消防団に入って自分の街を守ってみませんか？

消防団活動は、火災時に市消防職員と連携して消火活動に当たり、普段は住民への火災予防の啓発・広報・防火指導等を行います。特に消防団は地域の事情に通じているため、地震や風水害等の大規模災害の際には、被災者の救助・救出・避難誘導等に大きな力を発揮します。

我々はまだまだ多くの人の力を必要としており、自分の特技を地域に役立てようと思っている方、ボランティア活動をしたいけれど何をやってよいのか解らない方は、我々と一緒に消防団活動から始めてはいかがでしょうか？

大学生や専門学校生また女性でもなれますので、入団に興味のある方は、詳しくは分団長の近藤英一さんか、消防局若しくは中央消防署の消防団係へお問い合わせ願います。



分区的の生い立ちと現在

姥ヶ山分区分長 桜井政雄

近年、世代交代・農家離れが進み、後継者の若い人達から「分区」とはどういった組織なのか良くわからないと時々耳にしています。正式名称は「亀田郷土地改良区山潟工区姥ヶ山分区」といいます。

亀田郷の「郷」とは水郷のことを言い、葦沼の中腰まで水につかりながらの田植え、舟を使つての稲刈り、現在の農業では考えられない過酷な農作業、買い物に行くのにも舟に乗って沼垂まで行つたと祖父から聞いています。

昭和二十三年、紫竹に当時東洋一と言われた排水機場が完成し、葦沼だった田んぼから水が引いていきました。

昭和二十六年、亀田郷土地改良区が発足し、第一工区横越、第二工区大江山、第三工区亀田、第四工区両川、第五工区曾野木、第六工区鳥屋野、第七工区山潟、第八工区石山、第九工区大形の九工区、そして各工区に分区ができ、山潟工区も（山二ツ、姥ヶ山、長潟、清五郎）四つの分区が構成されました。

昭和二十六年から昭和三十年の五年間は地域農家の人々が農閑期（晩秋・春）を利用して鍬を持ちトロコを押し、入り混じった大きさの違う形の田んぼを整理整地し、用水路・排水路・農道を基盤の目のような現在の形に変える大変大掛りな事業（耕地整理）が行われました。分区はこの事業に参加した農家が集まってきた組織です。

私が子供のころは農業も盛んで、前郷地・裏郷地どちらを見ても一面田んぼで、信濃川の花火大会もよく見えたものでした。

昭和三十年の新潟大火、昭和三十九

年の新潟地震で出た塵の処理場として鳥屋野潟と裏郷地の一部を埋め立て、また新潟市の塵埋立地としても使用されました。

それに伴い徐々に開発が進み始め、昭和四十一年にファミリールランド（現在の高志高校付近）の造成、そしてこの地域で一番大きな開発である京王団地の造成が終わると一気に裏郷地が消えていき、農家も会社勤めの人々が多くなり、分区（農業）への関心が薄れていきました。

分区役員は監査も含めて十人。農道・用水路・排水路の管理点検整備が主な仕事です。その他開発に伴う転用許可等の仕事もあります。毎年春先に行つてゐる村総出の排水路泥上げ作業も分区事業の一つです。

また、総会を二月の日曜日に農家組合と合同で毎年開催しています。村内の人々が一堂に集まる機会が少なくなつてゐるなかで、若い世代の方々にも積極的に総会に参加していただき、分区について少しでも関心を持つてくれればありがたいですし、総会の後に行われる懇親会も楽しんでもらい村の交流の場になればと思っています。



「さいの神」事前準備完了

「さいの神」事務局

十一月十八日に、「さいの神プロジェクト」実行委員と小学校の児童・先生方、計七十八名により、「さいの神」の準備作業を行いました。

孟宗竹・細竹・葦・トバカキの四班に分かれ、それぞれの現場で作業して、一部は会場の一角に保管し、あとは当日の組み立てを待つばかりとなりました。

終了後、子どもたちは、実行委員長からお礼の言葉とお土産を頂き嬉しそうでした。「さいの神」は大勢の協力で準備され開催されます。一月十三日三時に点火となります。皆様、ご参加下さい。



窓



老害と言われる前に

毎日のように新聞・マスコミ等を賑わす高齢者による事故、アクセルとブレーキの踏み間違い、高速道の逆行等・・・後を絶たない！

私達も他人ごとではなく、免許返納の勇氣を持たなければ？

若者達に仕事もない世の中、何時までも俺が俺の時代でもあるまい。一線ですらでもないが次の世代に引き継がねば！顧問や相談役、ボランティアや地域への貢献、御婆ちゃんの知恵袋的存在等、様々な活躍の場もあるのではないでしようか。

議員や首長は勿論のこと、司法や医師免許といったものから、様々な免許まで年齢や健康等による更新制限を考える時期なのかもしれません？

この暮れの忙しいときに降つて沸いた様な解散選挙、投票に行かない若者も多いと聞く？ 自分たちの将来を決める選挙です。権利だけ主張して棄権しているあなたへ、何も語る資格ありません。

投票すべき政党や候補者がいない場合は、白票を投じるのも一つの意思表示です。ともかく、十二月十六日は、老いも若きも皆で投票に行きましょう！

(O・S・M)



編集後記

歳をとると一年一年が過ぎるのが早いもので、今年もはや暮れようとしています。東北地震から一年と九ヶ月！ 未だ震度四や五といった余震とも地震ともつかない揺れが、東北や関東を中心に続いています。

衆議院選挙後の来年、少しでも世の中が良くなることを期待し、地域の皆さんは勿論のこと、日本中・世界中の人々が平和で幸せに暮らせることを祈るのみです！

追伸、神社からのお知らせです。二年参りの浄火のお札等の持ち込みですが、大晦日の午後三時から元旦の正午頃（消火の都合上）までお願いいたします。出し忘れた方は一月十三日のさいの神にお出してください。

なお、両方に共通しますが、出して良いものは、お札・お守り・しめ縄・松飾・神棚等です。持ち込む際は金属や陶器・プラスチック等は外して、御持込み願います！



投稿募集

最近気になること、ちょっとした話、サラリーマン川柳など、まじめなご意見から笑えるお話しまで、会員皆様の原稿を募集しています。発行は、毎年2回です。詳しくは、各ブロックの総務部までお問い合わせ下さい。